

森町を語る会

2019

町民との対話で進めるまちづくり



黒田町内会・森町を語る会のようす (黒田公民館)

住民意見を今後のまちづくりに反映

町民との対話による町政運営を目指す太田康雄町長は就任以来、「語る会」を町内各地区で開催してきました。

今年度は昨年度と同様に、太田町長と町職員が開催を希望する町内会に出向き、地域の皆さんとより身近で語り合う「森町を語る会」を開催。申し込みのあった3会場3町内会で実施し、地域課題の解決や活性化策のほか、これからの森町について活発な意見交換を行いました。

フリートークで意見交換

各会場では町内会が提案したテーマに沿って、フリートーク形式で地域の皆さんから貴重なご意見・ご提案を伺いました。

町では、町民の皆さんからいただいたご意見を十分に検討

「みんなで語ろう！森町の未来」をテーマに開催した町の広聴事業「森町を語る会」。8月と9月に実施した3会場(黒田、問詰、西幸町)の概要を紹介します。

■問い合わせ先 企画財政課広報統計係 ☎05-63306

するとともに、今後の町政運営の参考とさせていただきます。

田会 8月20日開催
黒田公民館
参加者 30名

問 学校統合後の子どもたちの通学路や通学方法を心配している。学校跡地の良い活用方法についても検討してほしい。

答 通学方法については、既存の交通体系で対応が可能と考えている。中学については、黒田町内会の生徒は選択肢の一つとして、秋葉線を使って通学することを想定。バス停から中学校までの距離があまり遠くならないよう、秋葉線の経路上で森中学校付近にバス停を移設するよう進めている。生徒の安全を確保するため、横断歩道を設置するよう県に要望した。大河内線を利用して通学する生徒は、途中で乗り換える

ことなく移設を進めているバス停まで運行できるよう準備を進めている。跡地利用については、泉陽中学校区の中学生以上を対象にアンケートを実施する予定。できるだけ多くの皆さんから意見をいただいた上で考えていきたい。



提案をする黒田町内会長

問 環境美化活動を行ったところが、特に河川の傾斜部分が危険だと感じた。町で援助をしていただける制度はあるか？

答 2級河川の維持管理活動に対してはリバーフレンズシップ制度、県道の維持管理活動に対してはアダプトロードプログラム制度がある。

いずれも県の制度ではあるが、県と町と実施団体3者の同意により、河川や県道の維持管理活動に対し、資材や消耗品等の助成が受けられる。町が管理すべき公園や道路の美化活動を町内会自らが実施する場合には、協働まちづくり推進事業費補助金の対象となる場合があるので企画財政課まで相談してほしい。

問 免許を返納してしまふと行動範囲が狭くなりどうしても問題が出る。免許返納後の生活支援、買い物や医療支援サービス等について教えてください。

答 自家用車を運転できない高齢者の日常生活の移動を支援するため、公共交通利用券を購入した人を対象に、購入費用の一部助成を6月から開始した。対象者は75歳以上の町民及び、65歳以上で運転免許証を返納して運転経歴証明書の交付を受けた町民。町営バス回数券、天浜線シルバーパス、天浜線回数券、静岡県タクシー協会タクシークーポン券の購入に対し、1人につき1年度あたり

3千円を上限に助成する。運転免許証を返納された65歳以上の人には、運転経歴証明書を持すれば、タクシー運賃が1割引になる制度がある。運転経歴証明書の発行には、警察署の窓口で千円の手料を支払うが、町では自主返納を行った日現在で65歳以上の人に、運転経歴証明書の発行手数料の全額を助成している。森町社会福祉協議会が運営している「もり移動支援調整センター」では買い物をしたい店等までの移動支援をはじめている。



意見を交わす太田町長

問 森町は合併でなく単独の道をこれまで歩んできたが、この先合併を考えているのか？それともこのまま頑張っていくのか？町長さんから話を聞きたい。

答 合併せずに今のままいきたい。当時の村松藤雄町長は、財政の立て直しや行政のスリム化、補助金のカットなど、住民の皆様にも負担をお願いしながらもここまでやってきた。今も森町は一つの自治体として、しっかりと経営されている。単独の道を選んだからといっても、ごみ、し尿、消防、火葬などの広域行政（周辺市と互いに助け合いながら行うこと）については今後も周辺市と協力して運営していく。医療面では、森町病院では診ることができないケースは、中東遠の地域で機能を分担しながら町民の医療が完結できるように進めている。今後も、小回りの利く、目の行き届く、住民の人たちがお互いに顔が分かり合う町づくりを進めていく。町では人口減少の力一歩をなるべく緩やかにするために総合戦略を立て、森町を発信すること、森町に来てもらう

こと、森町を気に入って森町に住んでもらうことを重点におき施策を行っている。森町を発信することで、まず行ったのがふるさと納税。町内の事業所から協力をいただき返礼品を増やすことで、森町の特産品を全国の皆さんに知ってもらおう、森町を訪れてもらうことで森町の良さを知ってもらい、定住につながると思い考えている。平成30年度に定住推進課を配置。移住定住の相談や空き屋バンク、東京や名古屋、大阪の移住フェアに年間5・6回参加しての町のPRを行っている。今年度の新規事業としては、アクティ森を舞台に「ロールプレイングトリップinモリマチ」をスタートさせた。スマホのアプリを使い、アクティ森敷地内の各所に設置されたマーカーにかざすと、伝説の生き物「コモコモ」のスタンプを取得できるものである。記者発表を東京で行うなど、見方や、やり方を変えながら様々なことに取り組んでいる。

問 若い人が戻って来ている市町がある。森町での取り組みなど、子育て支援策を含めて教えてください。

答 森町の取り組みとしては、今年度より国県の補助金を財源に、新たな移住支援制度として、5年以上東京23区在住、または通勤する人が森町に移住し、静岡県が運営する就職支援サイトに登録された企業へ就職、または起業した場合に、単身60万円、2名以上の世帯で100万円が交付される「森町移住就業支援補助金」を開始した。このほかに森町にあった施策はないか検討をしているが、全国的にみても多額なお金を使っている補助制度はあるが、果たしてそういったことで



黒田町内会の皆さん(黒田公民館)

森町を選んでいただくことが良いのか疑問である。住みよいまち、長く住んでもらいたい町とするには、森町らしいまちづくりを進めることも大事だと考えている。森町独自の制度としては、次代を担う子どもの誕生を祝い「森っ子出産祝い金」を交付し、子育て支援対策にも力を入れていく。

その他の意見（抜粋）

- 河川内の立ち木の伐採を考えているか？
- 現在、三倉小に通わせている。統合後に秋葉バスを利用する際、朝はまだ良いが帰りが不安。バスに乗り遅れた場合も含めて、待ち合いの場所を決めてほしい。時刻表の調整もできないか？
- 黒田のバス停から下りのバスに乗る場合、バス停が狭くて危ない。停留所を移設するか広くすることはできないか？
- 学校統合後のメンタルのケアは考えているか？ 森小との交流回数を増やしてほしい。

**町内会 9月4日開催
上問詰公民館
参加者 21名**



問詰町内会のみなさん（上問詰公民館）

問 高齢化や過疎化が進みバスの本数が減り、元々免許のない人も含め免許返納後の高齢者の生活の足に不安を感じる。町ではどのような対策を考えているか聞きたい。また、より移動支援調整センターが行っている運転ボランティアに登録するためには、養成講座を受講しなくてはならない。どのくらい（費用や日数など）で登録できるか教えてほしい。

答 町営バス吉川線の本数については、10年前と比較して大きく変わりはない。

予約が必要なバスと決まった時間に走るバスがあるが、決まった時間に走るバスの割合が増えている。地域の皆さんからの声を受け、バス停の移設、バス停の増設、ルート変更などを行い、できるだけ地域の実情にあった運行ができるように努めている。昨年度は、問詰町内会からの要望で、問詰バス停をより安全な公民館前に移設をした。免許返納後の対策としては、自家用車を運転できない高齢者の日常生活の移動を支援するため、今年度から公共交通利用券を購入した高齢者を対象に、購入費用の一部を助成している。対象者は75歳以上の町民、あるいは65歳以上で運転免許証を返納して運転経歴証明書の交付を受けた町民。1年度上限3千円を助成する。6月から事業を開始し、8月末時点で21件の実績があった。免許返納をした65歳以上の人は、運転経歴証明書を提示すれば、タクシー運賃が1割引になる制度がある。運転経歴証明書の発行手数料を町では全額助成しているが、今年度すでに42件の申請があった。より移動支

援調整センターでは、運転ボランティアが自身の車を利用して利用者の自宅から目的地間の移動を支援している。利用者は月2回まで利用でき、費用はガソリン代の実費のみ。行き先は町内限定で、買い物や医療機関の通院などに利用できる。運転ボランティアの登録は、普通運転免許証を有し、町の養成講座を修了した者に限られる。養成講座を受講するには費用はかからず、半日程度の講座となっている。



問詰町内会のみなさん（上問詰公民館）

問 アクティ森は、最近お客様が遠のいているように感じる。レストランも含めて、お客さんに来てもらえるような活用はないか？改善策があれば話を聞きたい。

答 森町体験の里アクティ森は開業より25年以上が経過。森町北部の地域振興、観光振興の拠点であり、森町全体においても観光の拠点であり、情報発信基地であると考えている。経営については、近年、年間売上高1億円から1億1千万円前後で推移しているが、昨年度（平成30年度）においては、年間売上高が1億円を下回り、約9千3百万円であった。理由は、繁忙期である春から秋にかけての台風や豪雨による悪天候や猛暑による影響などが大きいと考えているが、サービスのマンネリ化や経費削減によるサービスの低下などの影響もあると考えている。そこで、今年の夏休みからアクティ森を基点に、「新たな魅力創出発信事業」として、なぞきやらとコップレを活用したスマホを使った新サービス「ロールプレイングトリップinモリマチ」を提供し、森町のPRを実施するとともに、森町やアクティ森への集客を図っている。サービスの一環として、施設全体にフリーWi-Fiも整備し、おもてなしの



意見を交わす役場課長ら

環境を整えている。今回の事業は、20代から40代のファミリー層をターゲットにした取組みで、町としてもチャレンジ精神をもって取り組んでいるところである。太田川漁業協同組合でも「手ぶらで鮎釣り」をアクティ森近くの川で実施し、鮎釣りの楽しさを知ってもらおう事業をアクティ森と連携して実施したところである。今後自然体験や陶芸や草木染めなどの創作体験などアクティ森が従来から持つ魅力と、今のお客様が求めるニーズやトレンドを組み合わせたしながら、新たな魅力ある施設にしていけることが重要だと考えている。レストランのメニューは、東京の料理研究家が考案し、人気のあるタピオカなど新メニューが加わった。

問

今年も6月から鮎釣りが解禁となり、多くの釣り人が町外からも訪れている。川の水は毎年ひどく汚れていて昨年も底が見えない状態であった。太田川ダムから出てくる水が汚れているようだがどうにかならないか？

答

濁水の問題については、これまで重要な課題として、いろいろな対策を行ってきた。県では太田川ダムの濁水対策を検討するにあたり、地元関係者等の意見を聴取し学識経験者の指導・助言を得ることを目的に「太田川ダム濁水対策検討会」を設置。これまでに6回開催をした。県が行ってきた濁水対策としては、ダム湖の中の濁水を速やかに放流する早期濁水放流。上流域では崩落防止対策、下流域を中心に礫間浄化工事等を実施。減勢工内の濁度軽減対策も昨年度実施した。このほかにも支障木の伐採をするなどの対策を行っているが、なかなか抜本的な解決には至っていない。今後も継続して地域住民の皆様の声を県に届けるよう努めていく。



太田川漁協組合長から説明

その他の意見（抜粋）

- 移動支援を利用していて事故が発生した場合、どのような対応になるか？
- 吉川線のルートの変更は考えているか？
- アクティ森の山里の市とよんな市を一緒にしたほうが良いのでは？
- アクティ森のハード面を見直し、子どもたちが体験できる施設を増やしてほしい。
- ダム資源を活用し、イベントを企画してほしい。

西幸町会
町内会

9月13日開催
西幸町公民館
参加者 14名

問

単身世帯の高齢者が増え、新聞受けにいつまでも新聞が残っている状態を見かける。プライバシーの問題もあり、民生委員や町内会役員がどこまで入り込んでいいのか判断に苦しみ。他市町での対応の仕方も含めて教えてほしい。

答

町では、高齢者の異変にいち早く気づき、必要な支援の対応が図れるよう「森町高齢者等地域見守りネットワーク事業」を実施。新聞販売店、郵政グループ、水道検針員やコンビニエンスストアなど14の協力事業所と確認書を締結している。協力事業所が普段の業務中に高齢者（宅）等の異変に気付いた場合、保健福祉課に通報するもので、通報を受けると職員は現場に行き、安否の確認及び必要な支援を行う。民生委員は、厚生労働大臣から委嘱を受けた非常勤の地方公務員で、活動の一つとして「訪問活動」があり、名札を付けて高齢

者世帯や障がい者世帯、子育て世帯などを訪問し見守りを行っている。町内会では、ひとり暮らし高齢者等近くに身寄りがない方はある程度特定されていると思うので、独居高齢者などの友愛訪問、災害時避難行動要支援登録者の更新作業や地区防災訓練の際等に民生委員や町内会役員による声かけを行うなど常日頃から声を掛け合える関係性を築いていくことが必要と思われる。特に災害時避難行動要支援者の登録をされている方々は、地震や台風等の災害発生に備えて関係性を築いていくことが重要だと考えている。プライバシーなどにより本人の安否確認が難しい場合は、建物内の照明の点灯やカーテンの開閉など敷地外からできる方法により確認をしてほしい。新聞受けの新聞が溜まっている等気になることがあれば保健福祉課まで連絡をいただければ訪問に伺う。近隣市町の取り組みは、森町と同様に見守り事業や民生委員さんによる見守り等が実施されている。このほか、近隣住民や町内会など地縁団体の住民による相互の見守りなどが行われている。

る。



西幸町町内会のみなさん（西幸町公民館）

問

朝晩の通勤時間帯で、公民館前の道路は森町病院前駅の踏切のあたりからかなりのスピードで走行してくる車を見受ける。道路の形状がゆるいカーブになっていて、公民館北側に横断歩道もあり、小学校の通学路にもなっているため大変危険である。カーブのところにだけでよいのでガードレールを設置できないか伺いたい。

答

現状の構造は、公民館前の道路幅員は12.0m(両側歩道片側1.5m)であり、町営住宅に入るところの横断歩道についてはカーブの終点付近から直線に入る位置にある。カーブをかなりのスピードで車が走行してくるという点についてはモラルの問題が大きい。道路の構造上は特に問題ないので、今後は注意喚起を行うなど状況を見ながら検討をする。道路規制表示については、横断歩道手前のひし形の道路標示が薄くなり、見えにくくなっている。横断歩道も半分消え、制限速度の表示も消えかかっている。地元からの要望書もいただきながら、町から県公安委員会に引き直しなどの対応について進達する。通学路については、地域のPTAの方などからあがってきた通学路の危険箇所等の要望に対し、県や町、警察と学校が合同点検することで対策を行っており、平成24年度から30年度にかけて3回実施している。今後とも危険箇所等の要望に対し、必要に応じ連携して対応していきたい。



西幸町町内会のみなさん（西幸町公民館）



防災課長から写真で説明

その他の意見（抜粋）

- 町の指定避難所の避難先の変更が広報に入ったが、文字が小さく高齢者には読みにくい。
- 公民館前のカーブをかなりのスピードで車が走行してくるため、カーブミラーの設置を検討してほしい。
- 歩道の幅が1.5mで段差があるため、子どもが悪ふざけをすると歩道からはみ出して大変危険である。高校生が自転車通学で利用する道路でもあり、自動車だけでなく自転車も含めて安全対策はできないか？
- 穴田の踏切の手前部分がくぼんでいる。雨が降った後は、水たまりができて歩みにくい。
- プレミアム商品券の申請の割合は？利用できる町内の商店はどのくらいあるか？
- 小学生の登下校だが、民家がないところを歩く場

合、町としての対策があれば話を聞きたい。

「森町を語る会」の開催については、各町内会長をはじめ、地域の皆さんにご協力をいただき、大変ありがとうございました。